

しいのみぐみ

今月は描画や制作、また造形活動として小麦粉粘土をを使って遊んでみました。その中でも小麦粉粘土は、口に入れても安心で形を自由に変えることができる、指先を使ってあそべる、五感を使ってあそべる、初めての粘土あそびで今の子どもたちにもってこいのあそびでした。

粉の状態から触ってみて、サラサラと心地良さを感じていた子どもたちも、水を入れてみると途端に手を引っ込めてそのドロドロとした見た目に躊躇しています。混ぜるうちに粉がまとまってくるとそーと指で押して穴をあけてみたり、慣れてくるとちぎったり引っぱったりして指先を使って形を変えることの楽しさや感触の面白さを感じていました。小さい月齢の子どもたちも楽しめる活動になりました。

また、描くことも大好きな子どもたち、「もっと描きたい!」と気持ちが溢れ、一回に何枚も勢い良く描く子どももいます。まだ「描こう」という意識が十分でない時は手は動いているけれど目はよそを向いていることがあります。自分の手の動きで紙に線や点が見れるということが繋がる時としっかり紙に目を向けて意識的・意欲的に描くようになってきます。点が線に、線が往復線に、それがぐるぐる丸になっていきます。生き生きとした子どもたちの線は、単に手の機能が発達したというだけでなく、誕生した自我をのびのびと広げることでもあります。制作展ではその子どもらしい、今しかできない表現に出会い、成長を感じてもらえたかなと思います。これから描くこと、作ることが楽しいと思えるよう、子どもたちと向き合い共感して遊んでいきたいと思っています。



しいのみ・たんぼぼ・みずぐみだより

2020.2.25 円町まぶね隣保園

2月とはいえ、日中は寒い日も少なく、子どもたちは散歩や園庭あそびを楽しみました。又、制作では、描く・塗る・貼るなどの活動を通し、どんな形にしようか、どんな色にしようか、どこに付けようかなど、自分で考えて作ることを楽しんできました。出来上がった作品をお家の方と一緒に見ることができて、よかったです。

たんぼぼぐみ

つくる

制作展で、ゆらゆら飾りを作りました。透明のビニールホースを出してくると、興味津々の子どもたちです。どの太さのホースにしようかと見比べて「これ」と決めます。好きな長さに切ってもらい、中にビーズを入れ替わ、どんどん入れる子ども、好きな色や形を選んで入れる子ども、少し大きいビーズも無理に押し込んで入れようとする子ども、一度入れたビーズを全部出して再び入れて楽しむ子どもがいます。ぶら下げる飾りは、好きな形の画用紙に、絵を描き、シール貼りをします。両面テープをはがすので、最初は、どこからはがすのか苦心したり、すずらんテープが邪魔なつくりをする子どももいます。何度かはがすうちに、コツがわかり、どんどん貼っています。出来上がって、天井からぶら下げると、見上げて自分の作ったのを見つけていました。



みたくあそび - フォトリソグラフィ

保育者が足を伸ばして座り、「バスが出発しますよ」と声をかけると、1人2人と集まってきて、保育者のバスに乗ります。バスに乗って、さうとうたいが始まるとさらに集まってきて、保育者のバスはぎやうぎやうです。「動物園に着きました。何を見に行こう?」と聞くと、「ぞう!」「キリン見に行こう」と子どもたちは、保育者の言葉に答えます。みんなが保育室の中を大移動して、見に行つたつもりになります。すると「こんどはお魚見に行こう」という子どもの声で、再び保育者のバスに乗る。今度は水族館に行きます。ままごとあそびの中でも「こはんできたよ」「へちゃんお茶どうぞ?」カバンを持って「お仕事行ってきます」「パン買ってくる」「〜焼けたよ、熱いよ」と友だちや保育者とイメージを共有し、やりとりを楽しんでいます。子どもたちは自分たちが生活の中でしていることとあそびの中で再現しています。大人の働きかけで、そのあそびの世界も、どんどん広がっていきます。想像の世界で、何かに見立ててあそぶことや、へに合ったつもりであそぶことの大好きな子どもたちです。あそびが豊かになるよう、毎日の生活も大切にしていきたいものです。

お原真

寒い日には、散歩や園庭あそびの時に、ジャンパーを着ています。ジャンパーにも名前を書いてくださり、又、フードがついていると、引っかかり、引っぱられたりして危険ですので、フードの取りもたてお原真します。

みずぐみ

2月は温かい日も多かったですが、1日だけ雪が降りました。窓から見える雪に「ゆきがふいてる〜」ととても嬉しそうです。その日は雪がやんでから、ジャンパーを着て散歩に行くと寒さを忘れて、園周辺の少し積った雪を見て喜んでいました。

制作展 絵を描くのがとても好きな子どもたちです。そして1年を通してマジック、クレヨンなどで絵を描いてきました。年度始めの5月頃は、グルグル丸を描くなぐり描きです。1、2月になると「おかあさん、おとうさん、かくの」と言葉が広がり、みたくて描いていきます。「こうえんいくの」とイメージも膨らんでいきます。また作品作りでは、秋に拾った自然物に絵の具で色を塗り、毛糸をボンドで付けていきます。ボンドを先に全体に塗っておいて、毛糸を上からパラパラと降らせる子ども、毛糸を1本ずつ丁寧に付けていく子どもなど、個性があり、素晴らしい作品になりました。

散歩 たいよう組との交流では、西京公園へ行きました。たいよう組の子どもたちと手を繋いで歩くと、いつもより速いペースで歩きます。嬉しそうな子ども、少し緊張して歩く子どももいます。公園に着くと広いスペースでたいよう組の子どもたちが、自分で作ったタコをあげ始めると、みず組の子どもたちも一緒に走ります。鬼ごっこが女台まると、いつもより広い空間をいっぱい使って走ります。東り湯女をいっぱい受け身体も重かしたので、帰りは口数も少なくなる子どもたちですが、たいよう組の子どもたちと手を繋ぎ、気持ちも引っぱってもらい、がんばって歩きました。たいよう組のお兄さん、お姉さんにいっぱい遊んでもらったひとときでした。

自分でやってみよう!

2歳クラスの生活習慣の中で、衣服の着脱など個人差もありますが、1つのかたちを自分でできるようになります。それがバネになって、園庭に出る時も「園庭であそびたい」という要求を実現しようとするれば「自分でさっさと靴をはこうとします。それが次の活動をやってみよう」という意欲になり、くり返しあそびでできるように、自分を大女子、すごいと思える内面が大切です。みず組での生活もあと1か月となり、かせ組になる!という楽しみと意欲をもって過ごそうと考えています。さらにみず組としての日時間を楽しく大切に過ごしていきたいと思っています。





かぜ・そら・たいようぐみ
おたより(2月号)



今年は2月とは思えない暖かい日であったり、厳しい寒さの日があったり身体にとって色々忙しい日々でした。しかし、インフルエンザが園内で流行することなく、元気に登園することができたことは良かったです。3月は、卒園にむけて、みんなが嬉しい気持ちや淋しい気持ち、楽しみでもあり、複雑な思いで毎日を過ごすこととなります。それぞれの子どもは今のクラスでの友だちとのあそびをいっぱい楽しんでほしいと思います。

かぜぐみ

☆ひもを結ぶ☆

制作ではモビールを作りました。12月くらいから、汚れ物袋のひもを自分で結びリュックに片づけるようにしてきました。

初めは、「できない、できない」と言っていた子どもたちです。しかし、保育者が少し手伝っていくうちに、次々とひとりでするようになり、「できたで！」と喜んでいました。そのことから、今回のモビールは、「むすぶ」ことをテーマにしました。

汚れ物袋はいつも一度だけ結びますが、今回は、2回結びます。2回結ぶことで、子どもたちの頭の中は大混乱です。紙コップを少し押さえておくことで、結ぶことができます。何度か繰り返していくうちに、仕組みを理解して、どんどん進めていきます。2回結ぶだけでは終わらなくて、結ぶ毛糸がなくなるくらいまで同じところを何度も結ぶ子どももいます。「あれ？これできて？」と確認する子ども、穴あきパンチで自分で開けたたくさん穴全てに毛糸を通して、根気強く結ぶ子どももいます。その経験から、汚れ物袋を結ぶことに興味を持ち、自分でしようとする子どももいます。

そのような子どもたちの手元をじっくり見ていると、一生懸命、一度に色んな指が動いています。完成した時は達成感でいっぱいの様子でした。

このことを通して、普段の生活だけでなく、違った視野から子どもの成長を感じる事が大事であると思います。



☆友だちとも関わり☆

一人ひとりの視野が広がり、

友だちに興味を持ち、関わり合っあそぶことが多くなりました。

戸外に出ると、一斉に走り出し、追いかけて遊びが始まります。初めは、走ることが楽しくてそれぞれで走っていたのですが、いつからか、「〇〇(名前)がおに！」と決めて、追いかけてこへと発展していきました。その中に、保育者も入っていかうかと思うのですが、現在は、子ども同士の関わりを大切にしたいと思い、見守っています。少し、関わり方が良くないなあと感じた時には、中に入って話をします。また、楽しそうに追いかけてこをしていたと思っていたのに、涙する声が聞こえてきます。思いが合わずに、衝突することもあります。涙した方は悲しそうにし、涙された方は困った表情をしています。しばらくすると、二人で笑い合い、追いかけてこが再び始まることもよくあります。子ども同士で、問題を解決することはまだまだ難しいことですが、不思議なことに、いくらケンカをしても次見た時には笑顔で一緒にあそぶこともしばしばです。トラブルになっても、思いを相手に伝えて、相手の思いも知ってもらいたいと思い、保育者は最低限の仲立ちにして、見守っています。

保育室では、カルタや折り紙が盛んです。折り紙も、「つくって」と言うばかりであったのが、自分たちで本を見て、ああでもない、こうでもないと言って作っています。出来上がると、友だちに見せて、それを見た子どもが同じものを作ろうとしています。子ども同士で刺激合っています。そして、できたもので、ごっこあそびのようなことも楽しんでる毎日です。

これからも、色んなことで切磋琢磨して、友だちとの関係を広げていってほしいと思います。

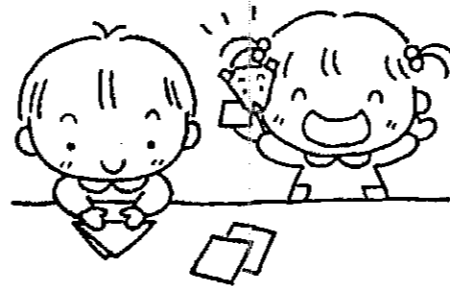
そらぐみ

〈〈友だちとの関係〉〉

4歳クラスとして過ごすのも残りわずかとなり、たいよう組への進級を心待ちにしている子どもたちです。友だちとの関係も日に日に深まっています。友だちと遊ぶ時に、一方的に自分の思いを主張し、その度、お互い以前は分かり合えず涙するということが多くありました。また“〇〇は悪くないし、〇〇くんがやってきはる”といった考え方も多かったです。何度の衝突をし、話し合いを重ねる中で、少しずつ友だちの思いにも気づき、耳を傾けるようにもなっています。一方的に友だちのことを言うのではなく、自分はこう思う、友だちはまた自分はと違った考え方をしていると受け入れ始めています。

友だちとのトラブルは決して否定的にとらえず、人間関係のステップアップにつながると信じています。友だち同士で解決に向かいこともあれば、保育者が間に入る必要がある場面もあります。大人からすると、こんなに些細なことか？と思うようなトラブルが本当にたくさんあります。たくさんもめて、その中で色んな友だちの考えを知って行って欲しいと思っています。そこで、自分がどう考えを変えていくことや、折り合いをつけていくかを学ぶ良い機会です。

仲の良い友だちと遊ぶことがとても楽しいですが、“友だちと過ごすのが楽しい”ということを基盤にもっと関わりが広がっていくよう保育を進めていきたいと思っています。



〈〈制作展ありがとうございました！〉〉

“まち作り”と“かばん作り”という2つのテーマで取り組みました。

共通のイメージを持ち、みんなで会話を弾ませて、制作を進めます。

すぐに作り始める子ども、またなかなか思い描けずゆっくり始める子どもなど様々です。友だちが作っていることに興味を持ち、刺激となり自分のぼんやりとしたイメージから少しずつ広がり、イメージを膨らませるようになってきています。

まち作りでは、一人ひとりの作品を集めて並べると子どもたちの喜びもひとしおです。“そらさん、みんなで大かんせいや！”と歓声をあげていました。

昨年は自分の作品作りに没頭する姿から、“お友だちと話して作る”という風に“〇〇しながらする”という2つのことを同時に行えるようになった子どもたちの成長を共に喜びたいと思います。

たいようぐみ

保育園生活も残りわずかとなりました。〇〇小学校に行く！、ランドセルは〇〇色やで～、半日入学楽しかった！ともうすぐ小学生になる事を楽しみにしています。

先日、卒園式ごっこをしました。一人ずつ入場して…保育証書を園長先生からもらってから、友だちやお家の人に見せてね等々実際に動いてみます。

「まえのたいようさんもしてはった！」「あ～おぼえてるわ～」といよいよ自分たちの番なのだ嬉しそうです。かと思えば保育者の言葉尻を取ってケラケラ笑ったりわざとみんなを笑わせようと寝転がってふざけたりします。

ごっこが進まず声を掛けようかと思いましたが

“もしかしてみんな恥ずかしくて照れてる…？！”と制止の言葉を飲み込みます。

自分たちが主役だという事が分かっているからこうなるんだ～と思うと何だか微笑ましく感じた出来事でした。



双ヶ丘へ行こう！

20日(木)は防災センターへ行く予定でしたが、新型コロナウイルスが流行している為公共交通機関の利用はしばらく避けることにしました。子どもたちは中止になり残念がっていましたが、理由を説明すると「知ってる！TVのニュースで見たから」「お母さん言っはった」と思いのほか理解しています。行きたいけれど仕方ない…と気持ちを切り替えられるのはさすが5歳クラスの子たちだなと感じます。その代わりに行きも帰り歩いて双ヶ丘に行こうねと話す「やった～！！」「え～疲れる」と様々な反応です。双ヶ丘の魅力を知っている子どもたちは楽しみにしています。20日(木)当日、片道35分程度かけて歩き到着しました。

水分補給をして我先にと急な斜面を駆け上がります。何度も遊んだ場所でも「見て、こんなどんぐりあった！」「こっちにも道があるんやなと～行ってみよう」と新発見があり楽しめます。途中大きな岩山がある所ではお馴染みのボルタリング

グ(岩登り)や、朽木を見つくと木の枝でつづいて「キャンプファイヤーしてるねん」と冬のお泊り保育で経験した事を思い出して友だちと遊びます。

そして一番大好きな一の丘の頂上にある土の斜面に着くと、みんなで鬼ごっこを楽しみます。掃りは新たな道を開拓しようと子どもたちとさ迷いながら進みます…結局辿り着けず「あ～みんな(そら、かぜぐみ)給食食べてるんと違う？」等々言いつついつもの道を歩き双ヶ丘を出ます。思うようにいかない事も楽しいひと時でした。

3月最後の園外保育も双ヶ丘へ行きます。

自然の中で思いきり身体を動かし遊んでこようと思います。

